

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	グラン・シード東橋ルーム		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが安心感をもって通所し、「毎日楽しみにしている」と保護者の皆様から高い評価をいただいている点が当ルームの強みです。一人ひとりをしっかりと見守れる体制が整っており、安全で心地よい環境を提供できています。	毎日の送迎時には、その日の活動の様子やお子様の状態を保護者様へ丁寧にお伝えし、ご質問やご相談にもしっかりとお答えするよう意識して取り組んでおります。また、土曜日の活動などを活用し、保護者様が参加できるイベントも設けています。	保護者様からいただいた「SNSでもっと活動を見たい」というご要望にお応えし、今後はInstagram等の活用をさらに増やしていく予定です。ご家庭でお子様と一緒に活動を楽しく振り返ることができるよう、日々の様子を積極的に発信してまいります。
2	現役プロフットサル選手によるサッカー療育や、ビジョントレーナーによるビジョントレーニングなど、独自の専門的な支援を提供できている点が強みです。スポーツの楽しさを通じて自立心や協調性を養うとともに、落ち着きがない等の根本的な課題にもアプローチしています。	活動プログラムが固定化して子どもたちが飽きてしまわないよう、実施する曜日や内容を工夫し、常に「楽しさ」を感じてもらえるよう取り組んでいます。運動に苦手意識を持つ前に、身体を動かす楽しさを知ってもらうことを意識しています。	SST（ソーシャルスキルトレーニング）やビジョントレーニングといった専門的なアプローチをさらに深め、子どもたちが成長の過程で社会性を身につけ、活力をもって「生きて生きる力」を育てていけるよう、一人ひとりに合わせた支援を充実させます。
3	限られたスペースを有効活用して個室を設け、一人ひとりの課題にじっくり向き合う個別活動と、社会性を学ぶ集団活動をバランス良く組み合わせ支援を行っている点です。毎朝の打ち合わせで子どもたちの様子を丁寧に振り返り、その日の支援に活かしています。	日々の支援が途切れないよう、毎朝の打ち合わせでは前日に来所したお子様一人ひとりの様子を必ず振り返り、当日の支援へと繋げています。また、支援終了後も気付いた点を職員間で共有し、常にチーム全体で連携したサポートを行っています。	これまで一部の職員に偏りがちであった活動プログラムの立案を、今後は職員全員で意見を出し合って決定する体制へと改善します。多様な視点を取り入れることで、子どもたちにとってより魅力的で効果的な療育プログラムを充実させてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様を対象としたペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムの実施や、保護者様同士・きょうだい同士が交流できる機会の設定が少なく、ご家族へのサポート体制にまだ改善の余地がある点です。	主に小学校低学年のお子様を受け入れており、まずはルーム内で安全に楽しく過ごせる環境づくりと、手厚い個別・集団プログラムの提供に全力を注いできたため、ご家族向けの交流会や家族支援プログラムの企画にまで十分な時間を割くことができておりませんでした。	土曜日などの活動時間を活用し、保護者様やご兄弟も一緒に参加できるイベントを定期的に企画してまいります。また、保護者様同士が気軽にお話しできる交流の場や、子育てのヒントとなる情報提供の機会を少しずつ増やしていきます。
2	地域の児童館や放課後児童クラブとの交流、あるいは地域に住む他の子どもたちと一緒に活動する機会が少なく、事業所の外のコミュニティと関わる経験が不足している点に課題を感じております。	限られた人員の中で日々の専門的な療育（サッカー指導やビジョントレーニング等）を実践することに注力していたため、地域の児童館など外部機関と調整を行い、定期的な交流の機会を創出するための仕組みづくりが間に合っておりませんでした。	活動プログラムの立案を職員全員で行うことで業務の偏りをなくし、より多様で楽しい企画を生み出していきます。その中で、地域他施設との交流イベントなども視野に入れ、子どもたちが地域社会と関わりながら成長できる機会を模索してまいります。
3	個別支援のための個室を作るなど工夫はしておりますが、ルーム全体のスペースに限りがあるため、子どもたちがさらにダイナミックに身体を動かせる活動場所の確保という点で、一部課題を感じる場合がございます。	毎日の丁寧な送迎対応や支援記録の徹底には力を入れてまいりましたが、業務全体にゆとりが生まれにくく、新たなイベントや外部発信を拡充する余裕が不足していたと考えております。	今後はInstagramなどのSNSを通じた日々の活動報告を積極的に増やし、事業所の取り組みを「見える化」してまいります。これにより、保護者の皆様にご家庭でお子様と楽しく会話を弾ませるきっかけを提供できるよう努めます。